高等学校国語科における「叙述に即して論理の展開を捉える力」の育成
－文章の構造を把握するプロセスの工夫を通して－

福島県立福島西高等学校　教諭　菅野　愛

1　研究の趣旨

現行の学習指導要領に、育成すべき重要な資質・能力の一つとして、〔知識及び技能〕に「情報の扱い方に関する事項」が新設された。さらに、同解説では、「情報の扱い方に関する事項」は、〔思考力、判断力、表現力等〕と相互に関連させながら、一体的に育成するとしている。

そこで、本研究では「読むこと」領域の指導において、「文章中の情報を取捨選択し、情報同士の関係を分かりやすく整理することで、文章の内容や構成、論理の展開を捉える力」を「叙述に即して論理の展開を捉える力」と定義し、その育成を目指す。そのために、生徒一人一人が、文章の構造を把握する「自分の読み方」※1を明確に言語化できるように、構造把握のプロセスで、「自分の読み方」や考えを可視化し、他生徒との交流を通して、段階的に改善できるように工夫する。そうすることで、不明瞭であった「自分の読み方」を、自分に合った、具体的で活用しやすい「自分の読み方」へとブラッシュアップし、進んで文章と向き合う姿へとつなげたい。

※1　筆者の主張や意図を見いだすために、文章の全体と部分の理解を結び付けて構造的に読み進めていく、生徒それぞれにとって最適な読解方法と捉えて研究を進める。

「読むこと」の領域において、文章の構造を把握するプロセスに、以下の手立てを講じれば、「叙述に即して論理の展開を捉える力」を育成することができるだろう。
【手立て１】「自分の読み方」をブラッシュアップする三段階の単元構想
【手立て２】「考えるテクニック」の活用
【手立て３】読みの過程を可視化するワークシート等の工夫

2　研究の概要

⑴　【手立て１】「自分の読み方」をブラッシュアップする三段階の単元構想
- ○　第一次「自分の読み方」を自覚する場
- ○　第二次「自分の読み方」を見直す場
- ○　第三次「自分の読み方」を汎用化させる場

⑵　【手立て２】「考えるテクニック」の活用

自力解決や他者との交流の場面で、文章中の情報の取捨選択や、情報同士の関係付け、互いの考えや意見の交流等ができるように、「考えるテクニック」※2を繰り返し活用する。

※2　学習指導要領〔知識及び技能〕の内容（2）情報の扱い方に関する事項より、「情報の整理」を参考に小中高の系統性を意識して整理したもの

⑶　【手立て３】読みの過程を可視化するワークシート等の工夫

生徒が文章の構造を読み解く過程やその際に使った「自分の読み方」を可視化するワークシートを活用する。

3　成果と今後の課題

⑴　研究の成果
- ○　ワークシートを経て、筆者の主張を捉えられるようになった生徒が実践を重ねるごとに増加した。
- ○　生徒は、可視化した「自分の読み方」を、情報の具体的な扱い方を用いて繰り返し検討することで、見いだした文章の構成や段落相互の関係を基に、筆者の主張を考えることができるようになった。
- ○　「自分の読み方」の活用の手応えを実感したことが、積極的に文章に向き合う生徒の姿につながった。

⑵　今後の課題
- ○　自分で「自分の読み方」をブラッシュアップさせていくのは限界があるため、互いの「自分の読み方」の交流に加えて、互いの読み方のよさや改善点を評価し合う場を設定する。その際、情報の扱い方をさらに具体的に用いることができるように、叙述に根拠を求めながら、「自分の読み方」に他者の読み方のよさや改善点を結び付ける工夫をしたい。